

複合利用施設防災訓練

地震や火災などの発生を想定し、駅と駅に隣接するグループ商業施設などが合同で災害対応を訓練するもので、平成24年度は3回実施しました。

各施設ごとでは定期的に訓練などを実施し、災害対応力を備えているものの、隣接施設と合同で災害対応訓練を実施することにより、施設横断的な連絡体制などを確認し、さらなる安全の向上を図っています。



複合利用施設防災訓練

脱線復旧訓練

災害や事故などで車両が脱線した場合に備え、緊急自動車を寝屋川・淀・錦織車庫に配置しています。また、脱線復旧訓練を年間3回実施しています。そのうちの1回は、車軸が不転となった場合を想定した復旧訓練を実施するなど、不測の事故に対しても技術の継承をしています。

また、緊急時連絡体制を確立し夜間・休日でも速やかに対応できるよう、非常呼集訓練も実施しています。

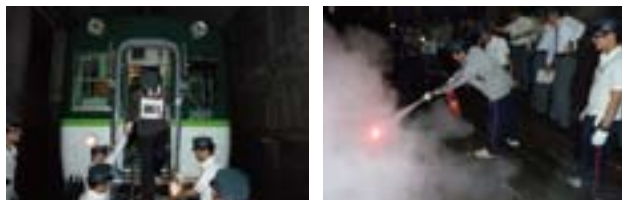


脱線復旧訓練

地下線内火災想定訓練

運転士・車掌・駅係員を対象に地下線内車両火災想定訓練を実施しています。平成24年5月に、地下線を走行中に「車両から発煙した」ことを想定して、営業運転終了後、実際に列車を走行させ、お客さまの救出・避難誘導・消火作業が迅速・的確に行えるよう、緊迫した訓練により係員の冷静な判断力や連携を養っています。

また同時に地下駅の消火設備や、途中線路に設置されている防災設備を実際に歩いて操作するなど、万一の非常事態に備えています。



地下線内火災想定訓練

アルコールチェック

当社では運転士および車掌をはじめ、社用自動車や保守用車などの運転に携わる者全員に対して、出勤点呼時や業務開始前のアルコールチェックを義務付けています。実施方法は、係員が監督員の前で直接行う検査を取り入れ、健康状態の確認も併せて実施しています。



アルコールチェック

SAS（睡眠時無呼吸症候群）対策

SASとは、睡眠中に呼吸が止まる疾患です。睡眠中に10秒以上の無呼吸状態が1時間に5回以上、または7時間の睡眠中に30回以上あればSASと診断されます。主な症状は、昼間の耐えがたい眠気や集中力の低下などがあげられ、これらはヒューマンエラーにつながる恐れがあります。

そこで事故防止対策として、運転士全員に対しSASの簡易検査（パルスオキシメータ）を実施し、SASと診断された者に対しては、主治医と産業医の指導のもと、睡眠時にシーパップ装置を装着する対処療法を義務付けています。

事故要因分析講習会

平成24年度より、「事故情報等を活用した事故等の防止対策の検討体制強化」を目的に、各部門の人材育成を図るための要因分析講習会を実施しています。



事故要因分析講習会

安全ディスカッション・安全意識調査

平成24年度より、現業各部門での安全活動における悩みや疑問、意見に対して、外部有識者を招いて助言を得ることで、安全意識の向上を図る取り組みを始めました。

また、社員の考え方や理解度を把握し、今後の安全活動をより一層適切な方向に進められるよう、安全活動に関するアンケートを実施しています。



安全ディスカッション